

教 育 長 様

代表者 校園名： 榎本小学校 公印  
 校園長名： 勝本孝夫  
 電話： 6961-0461 F A X： 6961-5674  
 申請者 校園名： 榎本小学校  
 職名・名前： 教諭・齋藤敬子  
 電話： 6961-0461 F A X： 6961-5674  
 代表者校園 事務職員名： 國元明日香

## 平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

## 1 研究コース： いずれかを○で囲んでください。

個人研究コース ・ グループ研究 A コース ・ グループ研究 B コース継続研究： いずれかを○で囲んでください。 継続研究 ( 2 年目 ) 3 年目 4 年目

## 2 研究テーマ

国語授業のユニバーサルデザインを探究する。

～教科指導と特別支援教育とのコラボで学力向上を目指す～

## ◆ 研究内容のキーワード： 研究の内容をキーワードで書いてください。

6 年間を見通した学力向上、授業力向上、国語指導、特別支援教育、学力の優劣、発達障がいの有無、多様な発想や個性、共有・昇華、多様性から秩序性へ、アクティブ・ラーニング、インクルーシブ教育

## 3 研究目的： 箇条書きで端的に書いてください。 \* ユニバーサルデザイン（以後、「UD」）

- ① 本年度より、児童の通学服が私服から制服になり、より落ち着いた学校を目指すとともに、年々新たな課題に挑戦し続ける、児童数 900 名を超える大規模校である。価値観の多様化で、保護者の学校に寄せる願い・要望も多岐にわたっているが、「学力向上」への要望が年々多くなっている。また、特別支援学級在籍児童も増加傾向（28 年度現在、在籍 37 名、8 学級）にあり、通常学級での授業を通じた「学力向上」を望む声も年々多くなっている。その声に応えるためには、通常学級と特別支援学級とが連携を深めて、その子に応じた授業のあり方を、追究していくことが強く求められている。<資料「グランドデザイン」参照>
  - ② 「学力・体力・心」育成のバランスある教育を目指している本校では、「学力向上」については、昨年度より、本事業で承認いただき、“授業の UD 化”に取り組んできた。その結果、3 要件（焦点化、視覚化、共有化）と 7 視点（教室環境、学習ルール、関係づくり、授業構成、発問指示、板書、教材）を織り交ぜて、4 段階（参加→理解→習得→活用）の学習過程に沿った授業展開の有効性が明らかになった。
  - ③ 過去数年間の全国学力学習状況調査の結果を分析し、昨年度より「国語 B 問題克服」に焦点を当てた結果、説明文へのアプローチが、B 問題克服への第一歩であることが明らかになった。
  - ④ 年々、児童数が増え続ける本校（30 年度には 1000 名突破の予想）の“特色ある学校づくり”的には、児童の多様な発想や個性を尊重し、共有して、より昇華させることができることがより一層、求められる。いわば、“多様性から秩序性を生み出す（カオスからコスモスへ）学校づくり”という、大規模校ならではの取組が、より本格的な特色ある学校づくりのためには、ますます重要な鍵を握ってくる。
- ①②③④で述べた、昨年度の成果と課題、また、本校が抱える特質をもとにして、本年度も“授業の UD 化”をより深めて探究していきたいと考える。

また、“授業の UD 化”は、アクティブ・ラーニングのひとつの具体的な形態であり、インクルーシブ教育の具体的な形態でもあると捉えることができる。視点を変えていえば、アクティブ・ラーニングとインクルーシブ教育、そして、“授業の UD 化”。この 3 者は、互いに相関させながら指導していくことが、それぞれの授業形態の指導法がより効果的に行えるという、スタンスにも立脚したいと考える。

以上の前提をふまえて、本年度は、より具体的に国語科の説明文に絞り、説明文の各単元を UD の視点で再構成して授業を展開したい。なお、本年度は、特別支援教育に軸足を置いた UD（昨年度は、教科指導に軸足を置いた UD）にも着目したいと考える。つまり、教科指導と特別支援教育との“バランスあるコラボ”で、学力の優劣や発達障がいの有無が見えなくなる授業をデザインし、すべての子の学力向上を目指したいと考えている。

以上のような理由により、本年度のテーマを「国語授業のユニバーサルデザインを探究する」、サブテーマを「教科指導と特別支援教育とのコラボで学力向上を目指す」と設定した。

#### 4 研究内容：継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。

##### ＜27年度の成果○、課題●＞

○しんだんテスト（3年生）国語の正答率 79.0%→79.8% 無答率 1.7%→0%

○学校アンケートの「学校は楽しい」が、児童 65%→88% 保護者 83%→97% になった。

「授業がよくわかる」が、児童 64%→85% 保護者 60%→91% になった。

○発達障がいや配慮を要する児童の通常学級での学習意欲が高くなった。特に、国語科授業では、集中して学習する姿勢が生まれてきたことが、「振り返り」や「つぶやき」、「児童観察」などにより、明確に評価できるようになった。

●国語B問題克服のための第一歩として、説明文に視点を置いたUD授業の必要性が浮かび上がった。

●発達障がい等の課題を抱える子に焦点を置いた「特別支援教育に軸足を置いたUD授業」の必要性が浮かび上がった。

##### ＜28年度の研究内容の概略＞

①「教科指導に軸足を置いたUD」と「特別支援教育に軸足を置いたUD」の両者に立脚し、双方向から研究テーマに迫る。

②通常学級と連携して、「特別支援学級（ひまわり学級）での国語授業のUD」の研究授業を追究する。

③発達障がい等の課題を抱える子の学力向上について、客観的・数値的に評価する方法を探る。

#### 5 活動計画：日程など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。

月	日	内 容	講 師
4		研究の方向性検討	
5	16	UD研修会（特別支援教育に軸足を置いたUD）	インクルーシブ教育推進室・指導主事
6	21	授業研究会・6年（特別支援教育に軸足を置いたUD）	小田伸浩先生（大阪大谷大・教授）
7	1 25	全市公開「校内授業研究会」2・5年（教科指導に軸足を置いたUD） 夏季UD研修会（教科指導に軸足を置いたUD）	桂聖先生（筑波大附属小・教諭） 森川正樹先生（関西学院初等・教諭）
8		全国・地方の研究大会・研修会に参加	
10		授業研究会（特別支援教育に軸足を置いたUD）3年・4年	教育研究会国語部元・前・現部長・役員
11		授業研究会（教科指導に軸足を置いたUD）1年 授業研究会（特別支援教育に軸足を置いたUD）ひまわり学級 UD全国大会に参加	教育研究会国語部元・前・現部長・役員 インクルーシブ教育推進室・指導主事
1	31	研究発表会 ・公開授業・特別授業ライブ（桂聖先生の模範授業） ・研究発表・講演会（桂聖先生）	桂聖先生（筑波大附属小・教諭） *「国語授業のUD」の提唱者、第一人者。日本UD学会代表。全国各地で講演・模範授業を多く実施。著書多数。
2		28年度研究のまとめ	小田伸浩先生…関西圏の大学における「特支から迫る授業のUD」第一人者。
3		29年度研究の方向性検討	森川正樹先生…関西UD研究会代表者。「教科から迫る授業のUD」第一人者。

#### 6 見込まれる成果：学力向上をはじめとした大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの様々な力の向上、教員の指導力の向上をふまえ端的に記載してください。

##### ①学力向上

- ・学力差や発達障がい等の有無が見えなくなる授業を展開することを通して、より多くの児童が理解できるようになる。
- ・国語の説明文という視点を、鮮明にしたことにより、国語B問題の克服へ具体的・効果的に迫ることができる。

##### ②「生きる力」の育成

- ・「すべての子が参加→無理なく理解→確実な習得→実生活で活用」という学習過程をふまえることにより、児童のコミュニケーション力や自ら学ぶ力が養われるとともに、望ましい学級集団が育成される。

##### ③授業力の向上

- ・「国語授業のUD」は、本校が抱える課題に即した適切、且つ必然性あるテーマであり、全ての教員の研究意欲が大いに喚起される。そのため、指導力の向上も大いに期待できる。特に、若手教員が7割以上を占める本校には有効なテーマである。

#### 7 成果の検証方法：客観的な指標により、必ず数値で示すことができる方法で記述する。

- ・本校独自の国語に関する児童アンケートの結果が、年度当初より年度末で好結果となる。
- ・学校アンケートの「授業がわかる」の結果が、児童・保護者共に昨年度より好結果となる。
- ・授業アンケートの「授業内容を理解できていますか」の結果が、昨年度より好結果となる。
- ・大阪市小学校学力経年調査の国語の結果が、大阪市平均を上回る。
- ・学校アンケートの「学校は楽しいですか」といじめアンケートの「いじめられたことがない」が昨年度より好結果となる。

#### 8 研究発表の日程・場所(予定)　日程：平成29年1月31(火)　場所：榎本小学校

「公開授業・桂聖先生の特別授業（説明文）ライブ・研究発表・講演（仮題・UD説明文のポイント）」

#### 9 代表校園長のコメント：昨年度、市内外から多くの参加者（約500名）を得、UDへの関心の高さとともに、確かな手ごたえを感じました。本研究の深化充実は、本校のみならず、広くその成果を発信することで、現代の教育現場が抱える課題解決にも寄与するものであると確信しています。なにとぞご承認いただきますようお願いします。

上記の内容を原則としてA4判2ページで作成し、平成28年4月22日までに大阪市教育センター「がんばる支援」担当まで提出してください。